

平成26年度 今川幼稚園 学校評価及び学校関係者評価

1. 園の教育目標

日々の園生活を通して確かな「生きる力」をつける。

「生きる力」の具体的目標

- ①健康で丈夫な体をつくる。
- ②自分のことが自分で出来るようになる。(基本的生活習慣)
- ③自分で考えて行動していく力を身につける。(主体性)
- ④先生や友達との関わりを通してコミュニケーション力をつける。
- ⑤音楽や造形を通して豊かな感性を育てる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ①異年齢の交流を通して、一人一人の子供にコミュニケーション力をつける。
- ②インクルーシブ教育システムをもとに、全教員が保育技術の向上に努める。
- ③環境整備（室内・廊下・階段・トイレ・園庭・倉庫）に全教員で取り組む。
- ④保護者と共に協力し合いながら全園児の成長を願う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
① 異年齢の交流を通して、一人一人の子供にコミュニケーション力をつけることができたか。	A	昨年度の反省を踏まえて、異年齢交流を全教職員で話し合い、様々な機会を設けた結果、各学年、特に2歳児のコミュニケーション力が向上した。更なる向上を目指して努力していく。
② インクルーシブ教育システムをもとに、全教員が保育技術の向上のため職員間で話し合い、情報の共有、意見の交換等の話し合いがなされたか。	A	全職員での話し合いによる情報の共有がなされ、有識者等の助言をもとに、意見を交換し、インクルーシブ教育システム（指導・環境）の向上を図ることが出来た。これに満足することなく、質を高める努力をする。
③ 環境整備に全職員で取り組むことが出来たか。	B	平成27年度より幼保連携型認定こども園に移行するに伴い、大規模な環境整備に取り組んだ。特に衛生面に配慮したが、新制度移行前ということもあり、十分に整備出来たかは未知数のため、さらに努力していく。
④ 保護者と共に協力し合いながら全園児の成長を願う。	B	年間行事すべてにおいて、保護者の参加・協力を得ることが出来た。しかし、新制度への移行については、保護者にしっかりと説明をおこなったが、制度自体が未完のため情報が入り次第その都度説明を行っていく。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<p>目標や計画について、全教職員でよく話し合い、日々の保育に取り組むことが出来たが、更なる教員の保育力、教員自身の仕事に対する積極性の向上に邁進する。</p> <p>また、新制度に向けてさらなる環境整備、とくに衛生面に配慮していく。また、職員の増加が見込まれるため、今まで以上に安全面・防犯・防災の周知徹底を行っていく。</p>

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
特別支援の必要な子供に対応する教職員の質向上	外部講師による研修を学期毎に行い、子供の発達段階を踏まえて、適切な見守りが出来る様、全職員でミーティングを重ねる。
環境整備に取り組む	園庭の整備、遊具の安全性に気を配る。また、既存の保育室はもちろんのこと、増築棟（乳児幼児教室・給食室）の衛生面・安全面に配慮する。
安全・防犯マニュアルの周知徹底	不審者の侵入・火事・地震・大雨・暴風雨時の対応について全教職員でマニュアルの理解に努める。
地域の子育て支援	月2回の親子教室、月4回の園庭開放を引き続き行い、地域の子育て世帯への子育て相談等を積極的に行っていく。

6. 学校関係者による評価

保護者からは「概ね良好な運営がなされており、学校評価にも積極的に取り組まれている。」とのご意見をいただきました。